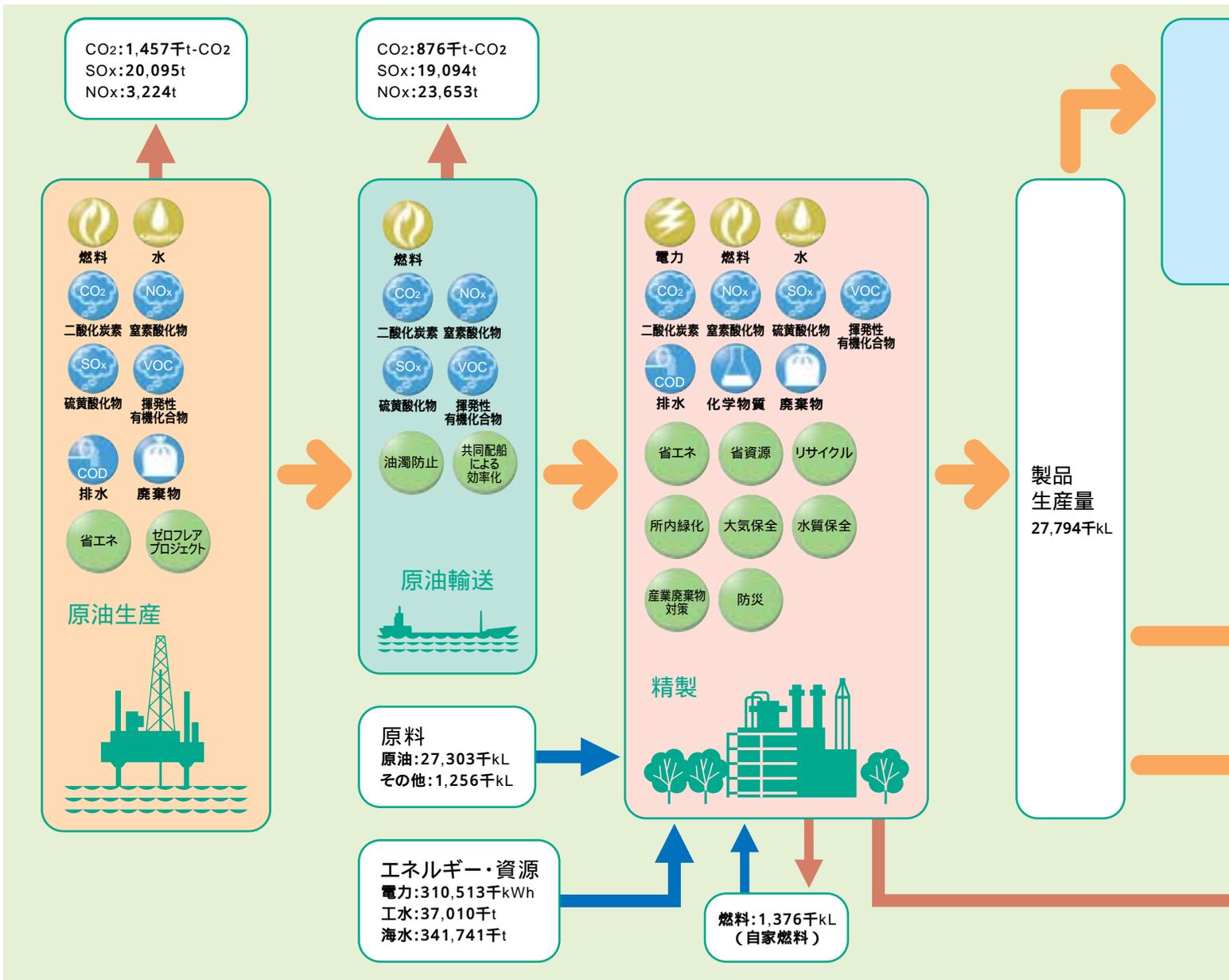


事業活動の環境負荷を定量化し、  
効果的な環境負荷削減につなげていきます。

当グループは、産油国における原油開発・生産から、原油輸送、精製、製品輸送、SS( サービスステーション )に至る石油のライフサイクル全般にわたる事業を展開しています。お客様の使用段階

を含めたライフサイクル全体で環境負荷の少ない製品をお届けするためには、それぞれの工程で環境負荷低減のための活動を行うだけでなく、ある工程の活動がほかの工程にどのような影響を



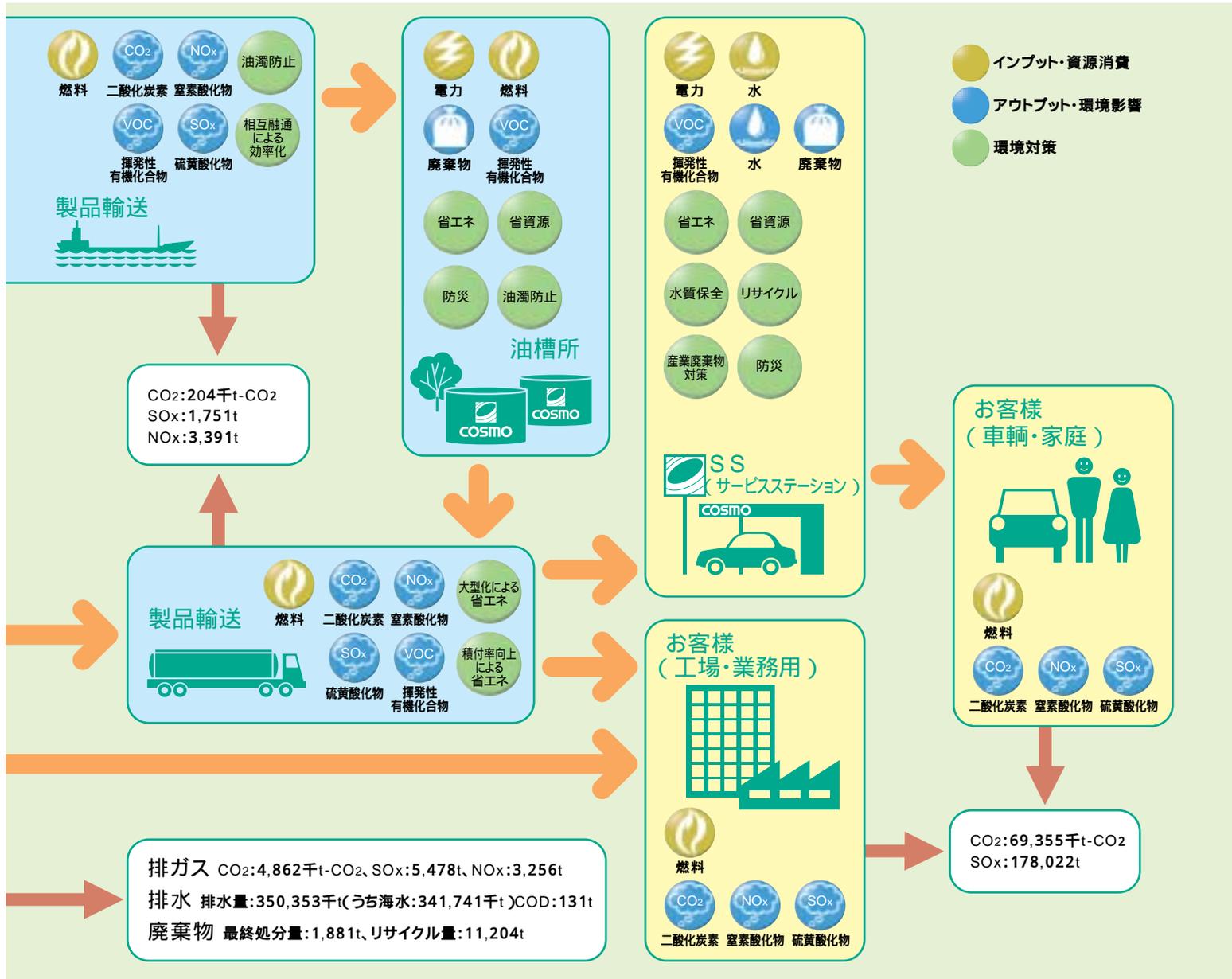
石油のライフサイクルインベントリー( LCI )

	原油生産	原油輸送	精製	製品輸送	製品使用	合計
CO <sub>2</sub> 排出量( 千t-CO <sub>2</sub> )	1,457	876	4,862	204	69,355	76,754
SO <sub>x</sub> 排出量( t-SO <sub>2</sub> )	20,095	19,094	5,478	1,751	178,022	224,440
NO <sub>x</sub> 排出量( t-NO <sub>2</sub> )	3,224	23,653	3,256	3,391	-	-

- ・ 2001年度の製品生産実績に基づく推計です。
- ・ 「原油生産」「原油輸送」「製品輸送」は、(財)石油産業活性化センターの2000年3月「石油製品油種別LCI作成と石油製品環境影響評価」に基づく推計です。
- ・ 「精製」「製品使用」は、環境会計の数値を使用しています。計算方法及び前提は、環境会計のページを参照ください。
- ・ 「製品使用」におけるNO<sub>x</sub>は、主に大気中の窒素から生成され、また、製品の使用形態が多岐にわたるため、現状では把握が困難です。そのため今回は算出せず、今後の課題としています。また、油槽所、SSでの環境負荷物質排出量の把握についても、今後の課題とします。
- ・ 設備建設に伴う環境負荷は含んでいません。
- ・ SO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>による環境影響である酸性雨や光化学スモッグなどは地域性があり、CO<sub>2</sub>のように全世界同一には評価できないことに留意が必要です。

及ぼすかを把握することも重要です。たとえば、製品の低硫黄化など、よりレベルの高い精製を行うためには、製油所で多くのエネルギーを必要とし、環境負荷も増大しますが、これは、お客様の使用

時の環境負荷低減につながります。バランスのとれた効果的な環境負荷低減を推進するために、今年度は、ライフサイクルアセスメント(LCA)の視点から、工程別の環境負荷の把握を試みました。



石油のライフサイクルにおける環境負荷物質の排出比率

